

一般質問通告一覧表

令和8年3月定例会

通告順	氏名 / 件名 及び 要旨
1	(箱崎 英輔)
<p data-bbox="306 481 1053 526">1. 安平町のまちづくりのこれからについて</p> <p data-bbox="306 582 1420 1478">(要旨) まちづくりにおいても重要な地域コミュニティ、その希薄化は将来に向けて大きな行政負担そして財政負担へと跳ね返ることになり、安平町の持続可能性にも影響を及ぼすことにもなりかねないと思います。また、「最近、あの家の電気が夜になってもついてない」「新聞が溜まっている」など、こうした公助（行政）では把握しづらい近所の違和感こそが、本町の安全・安心の根幹であったと思います。しかし、地域コミュニティの衰退はこのセーフティネットを崩壊させ、さらには地域行事を通じた子どもたちの社会性や非認知能力を育む機会さえも奪おうとしているのではないかと感じます。一度途絶えた伝統やコミュニティを復活させることは困難であり、今がまさに安平町のアイデンティティを守れるかどうかの瀬戸際ではないのでしょうか。先日も町内で「地域共生社会って何だろう」という問いのもとにシンポジウムが開催されました。私も昨年から今年にかけて複数の講習やシンポジウムに参加してきましたが、地域コミュニティが防災や福祉、教育のほか様々なことに深く関連していることを改めて思い知らされました。今まさに「自助」「共助」「公助」の他に「互助」という考えを広げていく必要があると思います。さらに本町では現在、安平地区及び遠浅地区の地区別計画の策定が進んでいますが、実効性ある再構築の指針となるのか、その現状と今後の具体的な展望について伺います。</p> <p data-bbox="359 1534 853 1579">(1) 安平町地区別計画について。</p> <p data-bbox="414 1624 933 1668">① 地区別計画策定の根拠を伺う。</p> <p data-bbox="414 1814 1093 1859">② これまでの経緯や進捗状況について伺う。</p>	

(2) 地域コミュニティの衰退が生み出す現状や課題について伺う。

① 行政コストの増大と職員数について

自治会・町内会が機能しなくなると、これまで住民のボランティアで成立していたことが全て行政の仕事として跳ね返ってくることになるのではないかと。もし、このような状況になったら町の職員数を増やして対応するのか。また、業者委託の場合の経費負担はどうするのか。例えば広報紙の配布を町でやることになると経費はどれくらいかかるのか。

② 防災について

発災時に向けて自治会・町内会の防災組織の構築について、現状で自主防災組織を立ち上げていないところもあると思う。発災時には平時からのこうした取り組みがなければ災害が起きてからの対応に地域差が出てしまうのではないかと。町としてこうした地域差が生まれないような取り組みを行う考えがあるか伺う。

③ 福祉について

職員だけでセーフティネットを全て維持できるのか。個人情報との兼ね合いをどうしていくのか。福祉的な見守りだけでなく異変への初期対応ができなくなる。いわゆる近所の違和感を誰が見守るのか。

④ 地域行事の衰退について

地域の伝統行事などを支援する人が少なくなっているが、その環境を整えることはできないのか。（お祭りなどの際の学校時間の変更など）

一度途絶えたPTAや祭事などの組織や伝統行事を復活させるのは困難と思うが、考えを伺う。

⑤ 子どもの経験格差

子ども会の衰退は、単なる楽しい思い出の欠如だけにとどまらず、異年齢の子どもとのコミュニケーション能力や社会性を育む貴重な場であり、それが無くなると非認知能力の育成にも影響を及ぼすとともに、社会経験の格差が広がると思うが、今まで担ってきた子ども会の役割を子どもたちの経験格差が生じないように行政がカバーしていく考えはあるのか伺う。

(3) 安平町のコミュニケーションを強みとして育み、更なる成長した町へ向けて。

① 地区別計画のこれからについて伺う。
(達成目標と範囲(早来・追分地区)にも広げるのか)

② 『育てたい 暮らしたい 帰りたい みんなで未来へ駆けるまち』に向けて、今後どのような住民の行政参加を推進するまちづくり事業を検討していくのか伺う。